

埼玉古墳群関連文献目録 I

宮 昌 之

(凡例)

- 一 本目録は埼玉古墳群に関係する平成4年度までの論文を中心に収録したが、直接古墳群を研究対象にしていない論文であっても、重要な指摘がなされているものは収録し、引用や紹介だけのものは除いた。また、論文に準ずるもの・年報・報告書・図録・県市町村史・史跡案内・紀行文については必要と判断したものに限った。なお、新聞・週刊誌・古文書・古記録・辞典・写真集等は除いた。
- 一 定期刊行物の巻数・号数等は数字で表し、第○巻第○号は「○-○」と表記した。
- 一 再刊・採録(改題・加筆を含む)されている場合は初出の方にその旨を記し、採録の方は改めて記さなかった。

<1905 (明治38) 年>

- 柴田常恵「武蔵北埼玉郡埼玉村將軍塚」『東京人類學會雜誌』231 pp.375~379 (1982第一書房で復刊)

<1912 (大正元年) 年>

- 埼玉縣『埼玉縣誌』上巻 (1977歴史図書社で復刊 p.172、p.175)

<1923 (大正12) 年>

- 埼玉県北埼玉郡役所『北埼玉郡史』pp.52~53 (1974名著出版、1987臨川書店で復刊)

<1926 (大正15) 年>

- 大場磐雄「八月十九日の部分」『楽石雑筆』第六 (1975『記録—考古学史 楽石雑筆(上)』大場磐雄著作集6 雄山閣 pp.217~220に採録)

<1936 (昭和11) 年>

- 高木豊三郎『史蹟埼玉』埼玉村教育會

<1951 (昭和26) 年>

- 「北埼玉郡の古墳」『埼玉縣史』1 先史原始時代 埼玉縣 pp.333~361

<1958 (昭和33) 年>

- 甘粕健「武蔵の争乱と屯倉の設置」『横浜市史』1 横浜市 pp.112~130

<1961 (昭和36) 年>

- 栗原文蔵「蛇行状鉄器出土の武蔵將軍塚古墳」『埼玉研究』5 埼玉県地域研究会 pp.34~37 (1982国書刊行会で復刊)

<1963 (昭和38) 年>

- 栗原文蔵『古代の行田』行田市郷土文化会 pp.21~27
- 『古墳調査報告書』第六編 埼玉県教育委員会
- 『行田市史』上巻 行田市役所 pp.63~170

<1966 (昭和41) 年>

- 甘粕健・久保哲三「古墳文化の地域的特色 関東」『日本の考古学』Ⅳ 古墳時代(上) 河出書房新社 pp.428~498

<1967 (昭和42) 年>

- 大村進「武蔵国造に関する一考察」『埼玉研究』13 pp.15~31

<1969 (昭和44) 年>

- 『稲荷山古墳調査概報』埼玉県教育委員会
- 栗原文蔵「さきたま風土記の丘」『月刊考古学ジャーナル』39 ニュー・サイエンス社 pp.9~11

<1970 (昭和45) 年>

- 柳田敏司「埼玉古墳群について」『埼玉風景』5-5 埼玉風景同人会 pp.2~4 (1987『杖刀人のふる里に生まれて—埼玉の歴史と文化財—』柳田敏司先生還暦記念「杖刀人のふる里に生まれて」刊行会 pp.94~97に採録)
- 甘粕健「武蔵国造の反乱」『古代の日本』7 関東 角川書店 pp.134~153
- 町田章「古代帯金具考」『考古学雑誌』56-1 日本考古学会 pp.33~60

<1971 (昭和46) 年>

- 原島礼二「関東地方と「埴化人」」『台地研究』19 pp.1~16 (1977「関東地方の屯倉と渡来氏族」に改題し『日本古代王権の形成』校倉書房 pp.369~389 に加筆採録)
- 栗原文蔵「埼玉古墳群の古航空写真」『埼玉考古』9 埼玉考古学会 pp.13~14

<1973 (昭和48) 年>

- 坂本雄誠『さきたま古墳』さかもと (1979鉄剣関係追加)
- 柳田敏司「埼玉古墳群」『埼玉歴史点描』pp.14~15

<1974 (昭和49) 年>

- 柳田敏司「さきたま風土記の丘の建設」『歴史と旅』1-4 秋田書店 (1987『杖刀人のふるりに生まれて — 埼玉の歴史と文化財 —』 pp.44~55に採録)
- 栗原文蔵・田部井功「稲荷山古墳・丸墓山古墳周堀発掘調査概要」『資料館報』No5 pp.3~6

<1975 (昭和50) 年>

- 栗原文蔵・田部井功「天王山古墳・梅塚古墳周堀発掘調査概要」『資料館報』No6 pp.7~10
- 栗原文蔵「埼玉古墳群の問題点」『月刊考古学ジャーナル』112 pp.2~5
- 甘粕健「古墳が語る地域政権」『古代日本の権力者』朝日新聞社 pp.225~265
- 小泉功「風土記の丘構想について」『地方史マニュアル』4 郷土資料の活用 柏書房 pp.73~76

<1976 (昭和51) 年>

- 『埼玉古墳群とその周辺』埼玉県立さきたま資料館
- 原島礼二「古代の武蔵 — 屯倉の設置 —」『埼玉考古』15 pp.1~22
- 原島礼二「八世紀の武蔵国造」『北武蔵考古資料図鑑』校倉書房 pp.131~138

<1977 (昭和52) 年>

- 『地方史マニュアル』9 地方史と考古学
 - ・ 原島礼二「考古資料と文献資料」 pp.149~182
 - ・ 春成秀爾「史跡公園・資料館の役割」 pp.206~214
- 塩野博「天王山塚古墳について」『埼玉考古』16 pp.1~10
- 今井亮「古墳の副葬遺物」『地方史マニュアル』6 考古資料の見方〈遺物編〉 pp.246~282

<1978 (昭和53) 年>

- 原島礼二「関東地方の渡来文化」『日本文化と朝鮮』3 新人物往来社 pp.131~141
- 原島礼二『東松山市と周辺の古代』東松山市史編纂調査報告書13 pp.57~70
- 毛利光俊彦「古墳出土銅鏡の系譜」『考古学雑誌』64-1 pp.1~27
- 川西宏幸「円筒埴輪総論」『考古学雑誌』64-2 pp.1~70 (1988『古墳時代政治史序説』塙書房 pp.225~360に加筆採録)
- 田中卓「稲荷山古墳出土の大刀の銘文について」『史料』5 皇学館大学資料編纂所報
- 稲田晃「応神期前後の埴輪を見る — 稲荷山古墳の金石文の背景 —」『歴史手帖』6-11 名著出版 pp.48~56
- 『芸術新潮』11月号 新潮社
 - ・ 松本清張「鉄剣銘解釈への疑問」 pp.162~166
 - ・ 森浩一「稲荷山古墳の考古学メモ」 pp.167~168
 - ・ 百目鬼恭三郎「古代文字解読のむずかしさ」 p.169
- 有坂隆道「埼玉稲荷山古墳出土鉄剣銘試論」『古代史の研究』創刊号 関西大学古代史研究会 pp.1~25
- 鈴木靖民「倭政権の確立過程」『歴史研究』214 新人物往来社 pp.28~35
- 斎藤国夫「稲荷山古墳出土鉄剣について」『追補行田史譚』行田市郷土文化会 pp.付1~6
- 関和彦「稲荷山古墳出土鉄剣と継体・欽明朝の内乱」『共立女子第二高校研究論集』1
- 『稲荷山古墳出土関係資料 — 鉄剣銘文発見記念 —』埼玉県教育委員会
- 井上光貞「鉄剣の銘文 — 五世紀の日本を読む — (百十五文字は古代史学の通説を覆したか)」『諸君!』12月号 号外藝春秋 (1986『井上光貞著作集』5 岩波書店 pp.405~433に採録)
- 黛弘道「稲荷山古墳の鉄剣と日本古代史」『波』12月号 新潮社
- 『稲荷山古墳』埼玉新聞社
 - ・ 斎藤忠・黛弘道・原島礼二・金井塚良一・柳田敏司「東国文化の夜明け(座談会)」 pp.5~19
 - ・ 門脇禎二・大野晋・水野祐「鉄剣銘文を読む」 pp.31~33
 - ・ 直木孝次郎「三つの銘文と日本古代史」 pp.34~35 (1987『日本古代国家の成立』社会思想社 pp.213~218に採録)
 - ・ 金井塚良一「武蔵国造の争乱伝承と埼玉古墳群」 pp.36~37
 - ・ 原島礼二「古代武蔵の王者と大王」 pp.38~39
 - ・ 甘粕健「武蔵と毛野との関係」 pp.40~41
 - ・ 大野晋「鉄剣銘文百十五文字からみた日本語の源流」 pp.42~43
- 『歴史研究』215
 - ・ 鈴木靖民「古代国家形成の端緒」 pp.28~35
 - ・ 石崎景三「稲荷山鉄剣と魏志倭人伝」 pp.42~45
- 大沢俊吉『写真と解説 埼玉古墳群と稲荷山古墳の鉄剣』川崎書店
- 『辛亥銘鉄剣と埼玉の古墳群』読売新聞社浦和支局編
 - ・ 直木孝次郎「百十五の金文字」 pp.104~110 (9.28、9.29『読売新聞』を採録)
 - ・ 大野晋「天皇家へ献上の刀か」 pp.111~116
 - ・ 井上光貞「辛亥はやはり四七一年」 pp.117~122
 - ・ 上田正昭「銘文解読をめぐる課題」 pp.123~127 (10.11『読売新聞』を採録)
 - ・ 大野晋「鉄剣銘文で再論」 pp.128~131
- 『武蔵野』57-1 武蔵野文化協会
 - ・ 山田英二「鉄剣銘文発見に寄せて」 pp.44~45
 - ・ 山本謙清「鉄剣銘文百十五字をめぐる」 pp.45~48
- 渡辺貞幸「辛亥銘鉄剣を出土した稲荷山古墳をめぐる」『考古学研究』99 考古学研究会 pp.27~34

<1979 (昭和54) 年>

- 『歴史と人物』1月号 中央公論社

- ・末永雅雄「古代刀剣身の銘文と装飾」 pp.46～61 (1991『日本の武器<太刀と外装>』末永雅雄著作集4 雄山閣 pp.61～78に採録)
- ・直木孝次郎「古代ヤマト政権と鉄剣銘」 pp.62～69
- ・門脇禎二「まず地域史から考える」 pp.70～77
- ・井上秀雄「朝鮮金石文との関係から」 pp.78～81
- ・斎藤忠「発見者報告 稲荷山古墳と鉄剣」 pp.82～87
- ・金井塚良一「稲荷山古墳の築造時期」 pp.88～89 (1980『古代東国史の研究』 pp.115～119に採録)
- ・大塚初重「東国古墳文化のなかの稲荷山古墳」 pp.90～97 (1986「埼玉稲荷山」に改題し『東国の古墳文化』人類史叢書5 六興出版 pp.239～254に採録)
- ・古田武彦「銘文通釈に挑戦する」 pp.98～101
- ・李進熙「『世紀の大発見』の異様さ」 pp.108～111
- ・坂元義種「倭の五王の時代」 pp.112～119
- ・川崎真治「キュロス大王とワカタケル大王」 pp.122～125
- ・藤間生大「宣誓とつかえ奉る — 船山古墳と稲荷山古墳と」 pp.126～133
- ・佐伯有清「臣か直か — 銘文と武蔵の豪族」 pp.134～139 (1985「武蔵の古代豪族と稲荷山古墳鉄剣銘」に改題し『日本古代氏族の研究』吉川弘文館 pp.79～90に採録)
- ・原島礼二「銘文の語る武蔵」 pp.140～148
- 鬼頭清明「古代国家の成立をめぐる」『歴史地理教育』287 歴史教育協議会 pp.14～21 (1993『日本古代史研究』と国家論 — その批判と視座』新日本出版社 pp.126～140に採録)
- 黛弘道「古代史の争点① 稲荷山古墳出土の鉄剣銘」『歴史手帖』7-1
- 斎藤忠「埼玉県稲荷山古墳と出土した鉄剣について」『学会会報』742 学会会 pp.10～13
- 『月刊ペン』12-1 月刊ペン社
 - ・井上越夫「古代東国を刻む鋼剣の金文字」 pp.52～74
 - ・西岡秀雄「古墳時代の関東地方と気候」 pp.76～89
 - ・頼惟勤「日本古代の漢字音＝稲荷山鉄剣文字への手引」 pp.90～105
- 鬼頭清明「鉄剣が語る古代史の真実 埼玉稲荷山から江田船山まで五、六世紀日本の国家像は」『文化評論』213 新日本出版社 pp.111～121 (1994「稲荷山古墳の意味」に改題し『大和朝廷と東アジア』吉川弘文館 pp.54～73に採録)
- 『シンポジウム鉄剣の謎と古代日本』新潮社
 - ・直木孝次郎・岸俊男・井上光貞・斎藤忠・大野晋・西嶋定生「シンポジウム鉄剣の謎と古代日本」 pp.17～195
 - ・甘粕健「ヤマト政権と東国の古墳」 pp.196～209
 - ・佐伯有清「鉄剣銘文にみえる称号 — とくに「獲居」をめぐる —」 pp.210～222
 - ・川口勝康「五世紀史と金石文 — ワカタケル大王の時代 —」 pp.223～234
 - ・木下礼仁「鉄剣銘文に見る朝鮮との関係」 pp.235～248 (1993「稲荷山鉄剣銘文にみる朝鮮との関係」に改題し『日本書紀と古代朝鮮』塙書房 pp.135～151に採録)
 - ・東野治之「稲荷山古墳鉄剣銘を中心とする字音仮名表 付 鉄剣銘の書と仮名の発音をめぐる」 pp.250～257 (1983『日本古代木簡の研究』塙書房 pp.316～326に採録)
- 大塚初重・原島礼二・李進熙・金井塚良一「特別シンポジウム — 五文字は何を語るか — 稲荷山古墳出土の鉄剣銘文をめぐる —」『歴史読本』1月号 新人物往来社 pp.232～253 (1989『金井塚良一対談集 古代東国の原像』新人物往来社 pp.101～132に採録)
- 栗原文蔵・川上葵・乙益重隆・鈴木靖民「シンポジウム稲荷山古墳出土の鉄剣をめぐる」『国学院大学学报』234 pp.2～4
- 村山七郎「稲荷山古墳出土・鉄剣金石文を読む」『えとのす』11 新日本教育図書株式会社 pp.19～22
- 『東アジアの古代文化』18 大和書房
 - ・白崎昭一郎「稲荷山古墳出土刀剣の問題点」 pp.98～104
 - ・李進熙「稲荷山鉄剣の銘文は慎重に」 pp.105～107 (1978.10.24『毎日新聞』を補筆採録)
- 斎藤忠「<辛亥銘鉄剣>の発見に関連して」『月刊考古学ジャーナル』157 p.1
- 原島礼二「埼玉稲荷山古墳出土の鉄剣銘文について」『歴史評論』346 校倉書房 pp.3～19
- 黛弘道「古代史の争点② 獲加多支鹵大王は欽明天皇か」『歴史手帖』7-2 p.45
- 金井塚良一「稲荷山古墳出土辛亥銘鉄剣をめぐる」『高校通信東書国語』182 pp.1～4 東京書籍 (1980『古代東国史の研究』 pp.106～114に採録)
- 『言語生活』326 筑摩書房
 - ・杉本つとむ「鉄剣銘文一見」 pp.30～32
 - ・藤堂明保「稲荷山古墳の剣銘の解説」 pp.33～36
 - ・古田武彦「時流を排す“読めた”とは何か」 pp.37～39
 - ・西宮一民「古代日本文字資料発見に寄せて」 pp.40～47
- 大野晋「鉄剣の銘文・私はこう読む」『諸君!』2月号 (1989「稲荷山古墳出土鉄剣の銘文」に改題し『日本語と世界』講談社 pp.173～199に採録)
- 『鉄剣文字は語る — 115文字が明かす古代史の謎 —』ごま書房
 - ・黛弘道「鉄剣文字はどう読まれ、なぜ問題になったのか」 pp.11～66
 - ・斎藤忠「鉄剣はどのように発掘されたか」 pp.67～104
 - ・森浩一「鉄剣文字は古墳文化のどこに位置するか」 pp.105～156 (1984「埼玉稲荷山古墳と鉄剣文字」に改題し『蘇る古代への道』徳間書店 pp.236～279に採録)
 - ・井上秀雄「鉄剣銘文と朝鮮金石文を比較する」 pp.157～198
 - ・原島礼二「鉄剣文字で古代史の何がわかったのか」 pp.199～224 (1993「東国の争乱と大和王権」に改題し『古代東国の風景』吉川弘文館 pp.22～44に採録)
- 栗原文蔵・川上葵・乙益重隆・鈴木靖民「シンポジウム稲荷山古墳出土の鉄剣をめぐる その2」『国学院大学学报』236 pp.4～7

- 『古代研究』 16 元興寺文化財研究所考古学研究室
 - ・元興寺文化財研究所文化財保存処理センター「稲荷山古墳鉄剣銘文の発見と出土鉄製品の保存処理」 pp. 60～62
 - ・直木孝次郎「稲荷山古墳出土鉄剣銘の問題点」 pp. 63～67
 - ・藤澤一夫「埼玉の古代墳墓 稲荷山鉄剣の金象嵌銘 — その読みと解と —」 pp. 68～97
- 田中卓『古代天皇家の秘密』太陽企画出版（1985『邪馬台国と稲荷山刀銘』田中卓著作集3 国書刊行会 pp. 217～416に採録）
- 村山七郎「稲荷山金石文について」『原始日本語と民族文化』（国分直一氏と共著）三一書房 pp. 249～264
- 『稲荷山古墳出土鉄剣金象嵌銘概報』埼玉県教育委員会
- 黛弘道「古代史の争点③ 鉄剣に見える『斯鬼宮』について」『歴史手帖』7-3 p. 47
- 岸俊男「稲荷山古墳鉄剣銘との出会い」『史窓余話』1（国史大辞典付録）吉川弘文館 pp. 1～3（1980『遺跡・遺物と古代史学』吉川弘文館 pp. 13～17に採録）
- 原島礼二『古代の王者と国造』教育社
- 『埼玉民衆史研究』5 埼玉民衆史研究会
 - ・金井塚良一「辛亥銘鉄剣をめぐって」 pp. 16～25
 - ・原島礼二「稲荷山古墳出土鉄剣銘文について」 pp. 26～32
- 斎藤忠「稲荷山古墳と出土の金象嵌銘鉄剣」『歴史と地理』104 山川出版社
- 稲田晃「稲荷山古墳の年代をめぐって(上) — 岩戸山古墳から稲荷山古墳を見る —」『歴史手帖』7-4 pp. 41～47
- 金思輝「鉄剣文字を朝鮮語で読めば — 日本の学者が説くように、雄略天皇など出て来ない —」『芸文春秋』57-4 pp. 376～381
- 小田富士雄「日本の古墳出土銅鏡について — 韓国・武寧王陵副葬遺物に寄せて —」『九州考古学研究』古墳時代篇 学生社 pp. 642～675（1975『百濟研究』6を増補採録、1987『日本考古学論集』10 吉川弘文館 pp. 149～186に採録）
- 坂井深三『稲荷山古墳 鉄剣銘百十五文字の謎 鉄剣の主は聖徳太子の実兄』權書房
- 岸俊男「稲荷山古墳鉄剣“辛亥年金錯銘”の解説」『考古学の謎解き』講談社 pp. 8～42
- 原島礼二「稲荷山古墳の鉄剣銘文について」『ハイスクールニュース』2-1 学校図書 p. 3
- 中堂観恵『埼玉・稲荷山古墳』原書房
- 『国学院大学日本文化研究所報』Vol. 16 No1（稲荷山古墳出土鉄剣銘検討会要旨）
 - ・中村啓信「鉄剣銘と金石文」 pp. 12～13
 - ・桜井満「万葉集の立場から」 pp. 13～15
 - ・嵐義人「法制史料としての銘文」 pp. 15～16
- 『東アジアの古代文化』19 大和書房
 - ・井上辰雄「関東と北九州の古代豪族 — 稲荷山古墳と江田船山古墳の銘文に関連して —」 pp. 2～15
 - ・佐伯有清「鉄剣銘と武蔵国の古代氏族」 p. 16～28
 - ・荒竹清光「稲荷山古墳と鉄剣をめぐる疑問 — その歴史地理的背景 —」 pp. 29～35
 - ・大和書房編集部「稲荷山古墳出土の鉄剣銘文をめぐって」 pp. 36～61
 - ・大和書房編集部「稲荷山古墳出土の画文帯神獸鏡をめぐって」 pp. 62～71
 - ・島辻義徳「稲荷山鉄剣は何を証明したか」 pp. 72～83
 - ・原島礼二・金井塚良一「鉄剣銘文と北武蔵の古代氏族」 pp. 84～99（1989『金井塚良一対談集 古代東国の原像』 pp. 133～156に採録）
 - ・池上巖「獲加多支鹵大王＝雄略天皇説への疑問」 pp. 100～119
 - ・古田武彦「九州王朝の証言〈三〉 — 埼玉稲荷山古墳の「鉄剣」銘文について —」 pp. 120～133（1983『多元的古代の成立』下巻 邪馬台壹国の展開 駈々堂 pp. 112～130に採録）
- 石崎敬三「稲荷山鉄剣銘の大王は倭王讃である」『歴史研究』219
- 井本英一「杖刀人」『えとのす』12 pp. 90～99
- 吉田晶「稲荷山古墳出土鉄剣銘について」『歴史評論』349 pp. 108～109
- 『歴史公論』5-5 雄山閣
 - ・甘粕健・神田秀夫・佐伯有清・黛弘道「座談会 五・六世紀の日本と稲荷山古墳」 pp. 17～46
 - ・柳田敏司「稲荷山古墳発掘調査のいきさつ」 pp. 48～49（1987『杖刀人のふる里に生まれて』 pp. 58～62に採録）
 - ・岸俊男「稲荷山古墳鉄剣銘の読みについて」 pp. 50～55（1980『遺跡・遺物と古代史学』吉川弘文館 pp. 13～17に採録）
 - ・坂元義種「倭王武とその時代 — 武の上表文を中心として —」 pp. 57～68
 - ・佐伯有清「古代氏族の系譜」 pp. 69～77
 - ・前川明久「鉄剣銘文にみえる称号と姓」 pp. 78～88（1986「稲荷山古墳出土鉄剣銘にみえる称号と姓」に改題し『日本古代氏族と王権の研究』法政大学出版局 pp. 53～67に採録）
 - ・新野直吉「武蔵国造について」 pp. 91～98
 - ・原島礼二「稲荷山古墳以後の北武蔵」 pp. 99～105
 - ・斎藤忠「稲荷山古墳の被葬者について」 pp. 115～120
 - ・乙益重隆「江田船山古墳と銀象嵌大刀」 pp. 121～129
 - ・前之園亮一「四～七世紀の金石文を解説する」 pp. 131～135
 - ・稲田晃「稲荷山古墳の年代をめぐる考古学的概見」 pp. 141～146
- 『歴史読本』5月号
 - ・八木充「ヤマト政権と古代国家の形成」 pp. 46～55
 - ・金井塚良一「野本將軍塚古墳の謎 — 武蔵国造の争乱と北武蔵最大の前方後円墳の築造時期 —」 pp. 64～71（1980「北武蔵最大の前方後円墳 — 野本將軍塚古墳の謎 —」に改題し『鉄剣を出した国』 pp. 71～86に補筆採録）
 - ・小林三郎「画文帯神獸鏡と稲荷山古墳」 pp. 232～235

- 小島憲之「文字の揺れ — 飛鳥朝「新字」の周辺」『文学』47-5 岩波書店 pp.1~20
- 宮原武夫「稲荷山古墳の鉄剣の教材化」『歴史地理教育』291 歴史教育者協議会 pp.80~83
- 大村進「稲荷山古墳と辛亥鉄剣銘文」『歴史教育』2 歴史教育研究会
- 小林三郎・新野直吉「1978年の歴史学界回顧と展望」『史学雑誌』88-5 pp.26~29, pp.35~40 (1987『回顧と展望』3 山川出版社 pp.136~138, 5 pp.254~256に採録)
- 『日本歴史』373 吉川弘文館
- ・宮田俊彦「稲荷山古墳の辛亥年は五九一年ではどうであろうか」 p.50
 - ・武井睦雄「『杖刀』考 — 稲荷山古墳出土の鉄剣銘から —」 pp.78~84
- 金井塚良一「稲荷山古墳と武蔵国造の争乱」『歴史と人物』6月号 pp.60~69 (1980『古代東国史の研究』埼玉新聞社 pp.137~153に採録)
- 稲田晃「稲荷山古墳の年代をめぐって(下) — 岩戸山古墳から稲荷山古墳を見る」『歴史手帖』7-6 pp.52~56
- 小野山節「鐘形裝飾付馬具とその分布」『MUSEUM』339 pp.4~15
- 桜井満「埼玉古墳群」『伝説のふるさと』日本書籍 pp.157~162
- 岡本健一「金文字と銀文字」「杖刀人と典曹人」「獲加多支鹵大王」『古事記の証明』毎日新聞社 pp.145~237
- 『国学院大学日本文化研究所報』Vol.16 No2 (稲荷山古墳出土鉄剣銘検討会要旨)
- ・椛山林継「系譜伝承銘について」 pp.10~11
 - ・野口武司「鉄剣銘と『書紀』」 pp.11~12
- 亀井正道「船山古墳と銀象嵌大刀」『MUSEUM』340 ミュージアム出版 pp.4~16
- 角林文雄「『大王』号説批判 — 稲荷山古墳出土鉄剣銘に関連して —」『続日本紀研究』203 続日本紀研究会 pp.49~52
- 関和彦「稲荷山古墳出土鉄剣原文考」『歴史手帖』7-7 pp.43~45
- 川崎真治「稲荷山鉄剣銘文は語る 白鳥と騎士の王」新國民社
- 『東アジアの古代文化』20
- ・大谷光男「古代の暦と太安萬侶墓誌銘の暦日」 pp.2~9
 - ・白崎昭一郎「斯鬼宮考 — 「シ」の甲乙別存在の可能性 —」 pp.133~149
- 山尾幸久「稲荷山古墳出土鉄剣銘の一試考」『日本史研究』204 日本史研究会 pp.55~67
- 大和岩雄「稲荷山古墳鉄剣銘文への疑問」『古事記と天武天皇の謎』六興出版 pp.223~248
- 小川良祐「埼玉県行田市稲荷山古墳出土辛亥年銘金象嵌鉄剣の象嵌について」『考古学雑誌』65-2 pp.103~107
- 古田武彦「九州王朝の証言(五) — 「定説」の崩壊 —」『東アジアの古代文化』21 pp.102~112 (1983『多元的古代の成立 下巻』 — 邪馬台壹国の展開 — pp.145~157に採録)
- 黛弘道「古代史の争点⑩ 鉄剣銘にみえる「杖刀人」について」『歴史手帖』7-11 p.48
- 古田武彦「関東に大王あり 稲荷山鉄剣の密室」創世記 (1987に新泉社から復刊)
- 甘粕健「古墳の展開と関東の地域政権」『新潟史学』12 新潟史学会 pp.1~13
- 鈴木靖民「稲荷山古墳鉄剣銘乎獲居臣の研究史的検討」『国学院雑誌』80-11 国学院大学 pp.9~22
- 角林文雄「武烈~欽明期の再検討」『史学雑誌』88-11 史學會 pp.46~60
- 黛弘道「古代史の争点⑪ 武烈天皇は雄略天皇の子・孫か」『歴史手帖』7-12 p.47
- 『歴史と人物』12月号 創刊百号特集
- ・直木孝二郎「古代王権の争奪」 pp.5~18
 - ・金井塚良一「推古朝と北武蔵の銅鏡」 pp.208~215 (1980『古代東国史の研究』 pp.298~314に採録)
- 『古代吉備国論争』(下) 山陽新聞社
- ・岸俊男「最新の古代史料と吉備」 pp.34~59
 - ・林屋辰三郎・井上光貞・直木孝次郎他「討論および補足講演」 pp.135~183
- 井上光貞「稲荷山鉄剣と古代史学」(公開講演要旨)『史学雑誌』88-12 pp.90~92 (1986『井上光貞著作集』5 pp.434~438に採録)
- 井上光貞「稲荷山鉄剣の銘文について」(講演要旨)『東方学会報』37 pp.5~6
- 水野祐「稲荷山古墳出土鉄剣銘文と古代東国史への一試論」『新鐘』27 早稲田大学 p.43
- 藤間生大「『倭の五王』時代の肥後」『新熊本の歴史2』古代下 熊本日々新聞 (1982『東アジア世界研究への模索 — 研究主体の形成に関連して —』校倉書房 pp.94~117に採録)
- 岸俊男「稲荷山古墳出土鉄剣銘のもつ意味」『時事教養』特集3 (1980『遺跡・遺物と古代史学』吉川弘文館 pp.31~38に採録)

<1980(昭和55)年>

- 『ゼミナール日本古代史』下 倭の五王を中心に 光文社
- ・坂元義種「文字のある考古学史料の諸問題」 pp.29~83
 - ・大塚初重「東国の古墳 — 毛野・武蔵・上総・下総 —」 pp.247~258
 - ・新野直吉「県・県主制から国造制へ」「氏姓制度」 pp.335~363
 - ・井出至「黎明期の漢字使用」 pp.422~431
 - ・岡田精司「古事記・日本書紀」の史料批判 — 初期大王の説話と系譜」 pp.484~496
 - ・西嶋定生「四~六世紀の東アジアと日本」 pp.593~614 (1985『日本歴史の国際環境』東京大学出版会 pp.46~80に訂正加筆採録)
- 上田正昭「最近の古代学の成果をめぐってI」『図書』366 岩波書店 pp.2~17
- 小川良祐・金子真土「稲荷山古墳出土鉄製品保存処理の概要」『資料館報』No10 pp.10~11
- 井上光貞・大塚初重・杉山二郎・直木孝次郎・西嶋定生・森浩一・松本清張『国家成立の謎』平凡社
- 『文学』48-4
- ・東野治之「護身劍銘文考」 pp.127~136 (1983『日本古代木簡の研究』 pp.327~344に採録)
 - ・金井塚良一「埼玉古墳群の形成」 pp.137~148 (1980『古代東国史の研究』 pp.154~173に採録)
 - ・井上光貞「古事記と稲荷山古墳」 pp.124~126 (1986『井上光貞著作集』5 pp.439~444に採録)
- 森浩一「埼玉稲荷山古墳を考える」『歴史と人物』5月号 pp.254~255 (1986『日本の古代国家と東アジア』古

- 代史選書6 雄山閣 pp.55～64に採録)
- 『歴史読本』5月号
 - ・佐伯有清「古代国家形成の問題点」 pp.46～54
 - ・甘粕健・今井堯・菊地康明・原島礼二・金井塚良一対談「古代東国と大和政権」 pp.114～137
 - ・栗原文蔵「稲荷山古墳の鉄剣銘文」 pp.150～151
 - 川口勝康「国際関係からみた古事記」『文学』48-5 pp.74～86
 - 岸俊男「万葉歌からみた新しい遺物・遺跡 — 稲荷山鉄剣と太安万侶墓 —」『日本古代の国家と宗教』上 pp.61～100 (1988「稲荷山鉄剣銘と丈部 — 万葉歌からみた新しい遺物・遺跡(一) —」に改題し『日本古代文物の研究』塙書房 pp.43～66に採録)
 - 吉田晶「稲荷山古墳出土鉄剣銘に関する一考察」『日本古代の国家と宗教』下 吉川弘文館 pp.1～25
 - 東野治之「漢字の伝来と受容」『歴史教育』14 (1983『日本古代木簡の研究』 pp.308～315に加筆採録)
 - 中村啓信「稲荷山古墳鉄剣銘から記紀へ」『国学院雑誌』81-6 pp.1～18
 - 斎藤忠・大塚初重「稲荷山古墳と埼玉古墳群」三一書房
 - 上田正昭・森浩一・山田宗睦「倭の五王」『日本古代史』筑摩書房 pp.171～195
 - 鈴木靖民「稲荷山古墳鉄剣銘」『古代国家史研究の歩み — 邪馬台国から大和政権まで —』新人物往来社 pp.177～212 (1983に増補版を發行)
 - 井上光貞「稲荷山鉄剣の問題」『テレビ大学講座 日本古代史』国家の成立と文化をさぐる 旺文社 pp.52～61
 - 『歴史公論』58
 - ・佐伯有清・平野邦雄・黛弘道「古代日本国家と氏姓」 pp.6～27
 - ・原島礼二「大臣と大連」 pp.43～44
 - 井上光貞「雄略朝における王権と東アジア — 「五世紀末葉・六世紀前半における倭国とその王権」第一部 —」『東アジア世界における日本古代史講座』4 学生社 pp.72～117 (1986『井上光貞著作集』5 pp.3～51に採録)
 - 佐藤文生「稲荷山古墳鉄剣銘は太(多)氏のものか」『神道学』107 pp.59～67
 - 『埼玉稲荷山古墳』埼玉県教育委員会
 - 原島礼二「鉄剣銘研究の問題点」『辛亥銘鉄剣と埼玉の古墳群 = 増補版 =』読売新聞社浦和支局編 pp.78～103 (1993「稲荷山古墳鉄剣銘の解説」に改題し『古代東国の風景』 pp.45～74に採録)
 - 『鉄剣を出した国』学生社
 - ・柳田敏司「百十五文字の発見 — 鉄剣銘文発見のいきさつ」 pp.7～14
 - ・塩野博「埼玉古墳群とその周辺」 pp.15～70
 - ・菅谷浩之「北武蔵と上毛野の古墳」 pp.87～128
 - ・沼野勉「武蔵国造の争乱」 pp.177～185
 - ・宮内正勝「日本古代史と銘文」 pp.186～209
 - ・原島礼二「鉄剣銘文の問題点」 pp.210～235
 - 本位田菊士「「大王」から「天皇」へ — 古代君主号の成立をめぐる —」『ヒストリア』89 大阪歴史学会 pp.1～20
 - 岸俊男『遺跡・遺物と古代史学』吉川弘文館
 - ・「稲荷山古墳出土鉄剣銘の解説」 pp.2～12 (1978.10.28『毎日新聞』を採録)
 - ・「稲荷山鉄剣銘発見から一年」 pp.39～43 (1979.9.21『毎日新聞』を採録)
- <1981(昭和56)年>
- 大村進「辛亥銘鉄剣をめぐる諸問題 — 銘文発見後の動向を中心に」『八潮市史研究』3 pp.219～288
 - 藤間生大「鉄剣の銘文と倭王武」『季刊邪馬台国』7 梓書房 pp.76～93 (1982『東アジア世界研究への模索 — 研究主体の形成に関連して —』校倉書房 pp.69～93に採録)
 - 金井塚良一「前方後円墳の消滅 — 北武蔵を中心として」『歴史公論』63 pp.68～78
 - 梶国男「武蔵の古墳と争乱」『歴史への招待』12 日本放送出版協会 pp.157～159 (1989『NHK歴史への招待 古代史の謎に挑む』I pp.39～47に採録)
 - 石崎景三『鉄剣と鏡が語る弥馬台国』新人物往来社
 - 石部正志「畿内の巨大古墳と倭の五王の世紀」『ヒストリア』90 大阪歴史学会 pp.1～16
 - 前川明久「足尼(宿禰)小考 — 埼玉県稲荷山古墳出土鉄剣銘文系譜に関連して —」『法政史学』33 pp.17～28 (1986『日本古代氏族と王権の研究』 pp.68～84に採録)
 - 『日本歴史展望』1 埋もれた邪馬台国の謎 旺文社
 - ・木下礼仁「稲荷山鉄剣銘と古代朝鮮文字」 pp.101～112 (1993「上代三金石文の字音 仮名字」とその性格」に改題し『日本書紀と古代朝鮮』 pp.151～171に採録)
 - ・田辺昭三「倭の五王」「記」・「紀」の前提 pp.246～255、264～272
 - 小川良祐他「瓦塚古墳東南部・鉄砲山古墳前方部西側周堀発掘調査概要」『資料館報』No11 pp.6～9
 - 直木孝次郎「稲荷山古墳鉄剣銘に関する一試論 — 斯鬼宮と磐余宮」『人文研究』32-9 大阪市立大学文学部 pp.1～16 (1987『日本古代国家の成立』社会思想社 pp.219～236に採録)
 - 『古代を考える』25 東国古墳群の検討 古代を考える会
 - ・梶国男「武蔵国の古墳」及び討論 pp.1～24
 - ・原島礼二「古代の武蔵と上野」及び討論 pp.25～52
 - 佐伯有清「江田船山古墳出土の大刀銘文」『東アジア世界における日本古代史講座』3 学生社 pp.247～272 (1986『日本の古代国家と東アジア』古代史選書6 雄山閣 pp.217～239に採録)
 - 有坂隆道「古代史を解くカギ — 暦の観点から —」『飛鳥の歴史と文学』2 駸々堂 (1982「埼玉稲荷山古墳出土鉄剣銘の「七月中」」に改題し『古代史を解くカギ』毎日選書11 毎日新聞社 pp.208～231に採録)
 - 坂本和俊「埼玉の前方後円墳」『歴史手帖』5 pp.17～23
 - 樋口隆康「埼玉稲荷山古墳出土鏡をめぐる」『考古学メモワール』19 学生社 pp.1～16
 - 佐伯有清「1980年の歴史学界回顧と展望」『史学雑誌』90-5 pp.35～41 (1987『日本歴史学界の回顧展望』5 pp.324～330に採録)

- 林屋辰三郎「原日本文化の生成」『新潮古代美術館』12 日本文化の創世紀 新潮社 pp.81~96 (1988『古代の環境』日本史論聚2 岩波書店 pp.3~26に採録)
- 森浩一「埼玉県稲荷山古墳を考える」『考古学西から東から』中央公論社 pp.204~208
- 安本美典「稲荷山古墳出土鉄刀銘文の閃光 ― 五世紀の謎を解く115文字」『季刊邪馬台国』9 pp.8~35 (1981『倭の五王の謎』講談社現代新書に加筆採録 pp.59~112)
- 田辺昭三『須恵器大成』角川書店 p.45
- 西嶋定生「序説・七世紀の東アジアと日本」『東アジア世界における日本古代史講座』5 学生社 pp.7~45 (1985「七―八世紀の東アジアと日本」に改題し『日本歴史の国際環境』東京大学出版会 pp.81~151に訂正加筆採録)
- 土田直鎮「武蔵野の統治」『武蔵野』59-2 武蔵野文化協会 pp.97~102
- 佐々木稔「銘文鉄剣の材質と製法」『月刊百科』229 平凡社 pp.20~26
- 川口勝康「五世紀の大王と王統譜を探る」『巨大古墳と倭の五王』青木書店 pp.111~159
- 齊藤国夫「埼玉県における榛名山二ッ岳噴火火山灰を堆積する遺跡について」『埼玉考古』20 pp.25~39
- 安本美典「獲加多支齒大王」にせまる」『倭の五王の謎』講談社現代新書 pp.96~112
- 小川良祐他「二子山古墳外堀範囲確認調査概要」『資料館報』No12 pp.6~9

<1982 (昭和57) 年>

- 安本美典「21代雄略天皇倭王武の国内平定」『歴史と旅』1月号 pp.62~65
- 佐々克明「高松塚10年に想う 七世紀までは「日本国以前」―」『季刊三千里』三千里社 pp.78~83
- 甘粕健・金井塚良一・大塚初重・今井堯・菊地康明・原島礼二『シンポジウム古代東国と大和政権』新人物往来社
- 金井塚良一「鉄剣めぐる古代の豪族辛亥銘鉄剣と乎獲居臣」『日本史の舞台』1 古代びと野望のあと 集英社 pp.124~121
- 辻本直男「杖刀と杖刀人」『歴史読本』2月号 pp.27~29
- 「埼玉(さきたま)古墳群」『新編埼玉県史』資料編2 埼玉県 pp.830~874
- 溝口睦子『日本古代氏族系譜の成立』学習院 pp.364~394
- 『埼玉稲荷山古墳辛亥銘鉄剣修理報告書』埼玉県教育委員会
- 『月刊考古学ジャーナル』201 特集・稲荷山古墳の鉄剣
 - ・福山敏男「東大寺山大刀と稲荷山鉄剣の銘文」 pp.2~4
 - ・増田精一「つるぎのたち」 pp.5~8
 - ・藤澤一夫「埼玉県稲荷山墓鉄剣の金錯銘～追考～」 pp.9~13
 - ・増田逸朗「辛亥銘鉄剣出土古墳の概要と埼玉古墳群」 pp.13~20
 - ・杉山正美「乎獲居の呼び声 ― 115の金象筩 ―」 pp.21~23
- 若松良一「同一古墳における円筒埴輪の多様性の分析 ― 古墳における複数回の埴輪樹立について ―」『法政考古学』第7集 法政考古学会 pp.13~30
- 駒宮史朗「埼玉古墳群」『埼玉の文化財 ― 史跡編 ―』埼玉の文化財シリーズ4 埼玉県教育委員会 pp.14~15
- 都出比呂志「前期古墳の新古と年代論」『考古学雑誌』67-4 pp.119~122
- 渡辺真幸「武蔵国造の争乱と古代東国」『別冊歴史読本』古代謎の王朝と天皇 pp.182~188
- 武光誠『古代史演習 部民制』吉川弘文館 p.6
- 鈴木靖民「1981年の歴史学界回顧と展望」『史学雑誌』91-5 pp.38~45 (1987『日本歴史学界の回顧と展望』5 pp.324~330に採録)
- 白石太一郎「畿内における古墳の終末」『国立歴史民俗博物館研究報告』1 pp.79~100
- 宮崎市定「七支刀銘文試釈」『東方学』64 (1988『古代大和朝廷』筑摩書房 pp.100~120に採録)
- 前川明久「盟神探湯とトモ」『東アジアの古代文化』32 pp.55~67
- 瀧川政次郎「津田史学の終焉と津田学徒の責任 ― 稲荷山古墳発見の鉄剣銘の解説 ―」『古代文化』34-8 古代学協会 pp.14~26 (1984『季刊邪馬台国』21 pp.72~93に採録)
- 新日鉄製鉄基礎研究所製鉄史研究会「“稲荷山鉄剣”表面鍍の解析」『MUSEUM』378 pp.4~10
- 井上光貞「序論にかえて ― カバネ・位階・官職 ―」『東アジア世界の古代史講座』6 pp.7~71 (1986「カバネ・位階・官職」に改題し『井上光貞著作集』5 pp.157~224に採録)
- 黛弘道・大塚初重・井上秀雄他『辛亥銘鉄剣と金石文 シンポジウム』埼玉県
- 今泉泰之「愛宕山古墳周堀範囲確認調査概要」『資料館報』No13 pp.8~13
- 『東アジアの古代文化』33
 - ・江上波夫「騎馬民族と日本の統一国家」 pp.2~63
 - ・荒竹清光「新「常世」考 ― 常世神の分布と考古学的知見を通して ―」 pp.122~148
- 江上波夫「江上波夫大いに語る 騎馬民族征服王朝のすべて」『歴史と旅』11月号 pp.36~55
- 岸俊男「稲荷山鉄剣銘補考」『歴史と人物』12月号 pp.24~25 (1984『古代宮都の探究』塙書房 pp.54~57に再録)

<1983 (昭和58) 年>

- 井上光貞「稲荷山鉄剣銘文考 銘文との出会い」『歴史と人物』1月号 pp.200~203 (1986『井上光貞著作集』5 pp.445~450に採録)
- 『歴史と人物』2月号
 - ・原島礼二「東国巨大古墳の王者たち」 pp.84~90
 - ・井上光貞「稲荷山鉄剣銘文考2 辛亥年と大王」 pp.162~165 (1986『井上光貞著作集』5 pp.450~455に採録)
- 重松明久「稲荷山古墳出土鉄剣銘文をめぐる推理」『谷口澄夫博士古稀記念論集』福武書店 (1986『古代国家と宗教文化』吉川弘文館 pp.145~167に採録)
- 井上光貞「稲荷山鉄剣銘文考3」『歴史と人物』3月号 pp.206~210 (1986『井上光貞著作集』5 pp.455~462に採録)
- 『シンポジウム 辛亥銘鉄剣と金石文』新編埼玉県史別冊
 - ・柳田敏司「報告 辛亥銘鉄剣の発見」 pp.33~56
 - ・江上波夫「記念講演 金石文としての鉄剣銘」 pp.57~77

- ・松本清張「記念講演 辛亥銘鉄剣の一仮説」 pp.79~102
- ・岸俊男「基調報告 古代刀剣と辛亥銘鉄剣」 pp.103~107
- ・黛弘道「基調報告 杖刀人首の性格」 pp.109~113
- ・林炳泰「基調報告 韓国における五・六世紀の金石文」 pp.115~118
- ・井上秀雄「基調報告 朝鮮・中国金石文と辛亥銘鉄剣」 pp.119~124
- ・大塚初重「基調報告 稲荷山古墳をめぐる考古学上の問題点」 pp.125~128
- ・江上波夫・松本清張・岸俊男・黛弘道・林炳泰・井上秀雄・大塚初重「シンポジウム 辛亥銘鉄剣と金石文」 pp.129~231
- 塩野博「武蔵埼玉稲荷山古墳出土品」「水鳥埴輪」『埼玉の文化財 — 書跡典籍古文書・考古資料・歴史資料編 —』埼玉の文化財シリーズ5 pp.82~84
- 井上秀雄「埼玉稲荷山古墳出土鉄剣の金象嵌銘文の字形に関する一考察」『日本文化研究所研究報告』19 東北大学文学部日本文化研究施設 pp.183~210
- 山尾幸久「雄略大王期の史的位階」『日本古代王権形成史論』岩波書店 pp.330~400
- 近藤義郎「前方後円墳の時代」岩波書店 p.316
- 溝口睦子「カバネ制度と氏祖伝承(下)」『文学』51-5〔カバネ制度と氏祖伝承(上)〕は51-4〕 pp.49~65
- 水野祐「古代史と古文書学」『日本古代史研究法』古代史選書4 雄山閣 pp.227~240
- 奥村邦彦『まぼろし紀行』毎日新聞社(昭和57年の毎日新聞連載に加筆採録)
- 『藤澤一夫先生古稀記念古文化論叢』藤澤一夫先生古稀記念論集刊行会
 - ・原島礼二「倭の五王の在位年代と名」 pp.161~180
 - ・本位田菊士「大臣」制と七世紀 前半の貴族政治 — 律令官制成立の前提 — pp.425~443
- 黛弘道・大塚初重・白石太一郎「最近出土の遺跡と遺物 — 主に東日本を中心に —」『東アジアの古代文化』36 pp.2~32
- 岸俊男「万葉集に解かせる謎」『日本古代史の謎再考』エコール・ド・ロイヤル古代日本を考える1 学生社 pp.171~204
- 林屋辰三郎「古代王権の諸段階」『日本史探訪』2 古代王国の謎 解説 角川書店(1988『古代の環境』日本史論叢2 岩波書店 pp.131~141 に採録)
- 『資料館報』No14 埼玉県立さきたま資料館
 - ・梅沢太久夫「埼玉古墳群保存修理事業について — 稲荷山古墳の保存修理 —」 pp.3~8
 - ・杉崎茂樹「瓦塚古墳周堀範囲確認調査及び出土遺物整理概要報告」 pp.9~13
 - ・杉崎茂樹「二子山古墳の埴輪および須恵器」 pp.23~30
- 宮崎市定『謎の七支刀』中公新書703 中央公論社 pp.120~155
- 直木孝次郎『古代日本の争乱』エコール・ド・ロイヤル古代日本を考える2 pp.106~111
- 梅沢太久夫「よみがえる古代史」『ひろがり』10 石油化学工業協会 pp.31~32
- 棚田国男『古代の土木設計』六興出版 pp.200~243
- 吉田孝「氏」の構造 — 氏上と天皇 — 『律令国家と古代の社会』岩波書店 pp.123~131
- 大塚初重「辛亥銘鉄剣を出土した稲荷山古墳の年代について」『日本古代史論苑』国書刊行会 pp.17~39
- 古田武彦『邪馬一国の挑戦』徳間書店(1991『日本古代新史 — 増補・邪馬一国の挑戦』新泉社で増補復刊)

<1984(昭和59)年>

- 坪内章年「稲荷山古墳出土鉄剣銘『獲居』をめぐる諸問題(上)」『東アジアの古代文化』38 pp.118~131
- 『日本古代文化研究』創刊号 P H A L A N X — 古墳文化研究会 —
 - ・白杵勲「古墳時代の鉄刀について」 pp.49~70
 - ・斎藤弘「鈴杵葉の分類と編年について」 pp.71~83
- 塩野博「埼玉県の古式古墳 — 稲荷山古墳以前の北武蔵 —」『埼玉県史研究』13 埼玉県 pp.1~26
- 『武蔵埼玉稲荷山古墳出土品』国宝指定記念講演会の記録』埼玉県立さきたま資料館
 - ・井上辰雄「金錯銘鉄剣と古代氏族」 pp.10~23
 - ・古田武彦「関東の大王と稲荷山古墳の鉄剣 — 多元的王権の成立 —」 pp.24~49
- 飯塚武司「北武蔵における埴輪生産の展開」『法政考古』9 pp.1~33
- 坪内章年「稲荷山古墳出土鉄剣銘『獲居』をめぐる諸問題(下)」『東アジアの古代文化』39 pp.168~183
- 『歴史と旅』5月号 特集 銘文鉄剣の謎
 - ・岸俊男「稲荷山古墳の鉄剣」 pp.50~57
 - ・西山要一「古代史の謎を解く X線考古学—稲荷山鉄剣における方法と成果」 pp.100~105
 - ・井上秀夫「東アジアの金石文から見た 古代の日本」 pp.112~121
- 長山泰孝「前期大和政権の支配体制」『日本歴史』432 pp.17~39(1992『古代国家と王権』吉川弘文館 pp.58~88に採録)
- 岸俊男「画期としての雄略朝 — 稲荷山鉄剣銘付考 —」『日本政治社会史研究』上 塙書房 pp.11~49(1988『日本古代文物の研究』塙書房 pp.67~97 に採録)
- 高橋徹『出雲の鉄刀20のナゾ?』朝日ブックレット28 朝日新聞社 pp.10~13
- 『歴史読本』6月臨時増刊
 - ・武光誠「雄略天皇は日本統一の覇者か」 pp.152~160(1993『別冊歴史読本特別増刊 古代天皇家の謎』 pp.86~95に採録)
 - ・井上辰雄「大和政権はいつ東国を服属させたか」 pp.200~208(同上 pp.50~58に採録)
- 『杖刀人とその時代』埼玉県立博物館
- 斎藤国夫「埼玉古墳群をめぐる諸問題」『原始古代社会研究』6 校倉書房 pp.127~190
- 『季刊考古学』8
 - ・佐々木稔「古代日本における製鉄の起源と発展——自然科学的研究の立場からのアプローチ」 pp.14~21
 - ・佐々木稔・村田朋美「古墳出土鉄器の材質と地金の製法」 pp.27~33
- 『歴史への招待』31(1989『NHK歴史への招待3 古代史の謎に挑むII 高松塚と稲荷山鉄剣』 pp.9~89に採録)

- ・松本清張・岡田秀彌「推理・稲荷山鉄剣1 — サビが語る謎の古代」pp. 89～113
- ・金井塚良一「稲荷山古墳出現前の古墳形成」pp. 100～101
- ・佐々木稔「鉄剣のさびの中の銅とカルシウム」pp. 108～109
- ・原島礼二「古墳時代の東西日本」pp. 114～116
- ・松本清張・石井昌国「推理・稲荷山鉄剣2 — 北方からの征服者」pp. 117～141
- ・石井昌国「古代刀のうつりかわり」pp. 132～133
- ・松島榮治「毛野国 — 六世紀その変容の時代」pp. 142～144
- 『日本古代史と遺跡の謎 総解説』自由国民社
 - ・原島礼二「大和王権の核をつくった豪族はだれか — 臣姓・連姓の意味するものは何か —」pp. 61～65
 - ・鈴木靖民「雄略＝ワカタケルと鉄剣をめぐる謎 — 大和朝廷と地方豪族はどんな関係か —」pp. 103～108
- 門脇禎二「葛城首長家の滅亡」『葛城と古代国家』教育社 pp. 95～137
- 吉田孝「祖名について」『奈良平安時代史論集』上巻 吉川弘文館 pp. 3～19
- 『季刊邪馬台国』21
 - ・田中卓「日本古代史の復権 — 特に井上光貞氏の学説を評す —」pp. 52～70
 - ・岡田芳朗「干支と金石文」pp. 130～139
- 『資料館報』No15
 - ・小久保徹「昭和58年度 埼玉古墳群保存修理事業 — 稲荷山古墳の保存修理 —」pp. 3～7
 - ・杉崎茂樹「鉄砲山古墳周堀範囲確認調査及び整理概要報告」pp. 8～13
- 『講座日本歴史』1 原始・古代1 東京大学出版会
 - ・白石太一郎「日本古墳文化論」pp. 159～191
 - ・鎌田元一「王権と部民制」pp. 233～268
- 岩崎卓也「後期古墳が築かれるころ」『土曜考古』9 土曜考古学研究会 pp. 1～16
- 田中正夫・小川良祐「埼玉県 — 埼玉古墳群周辺地域 —」『古代学研究』106 古代学研究会 pp. 8～11
- 門脇禎二「ヤマト朝廷論からヤマト国家論へ」『歴史と人物』12月号 pp. 60～65(1986『古代をどう学ぶか — 研究視角と歴史像の再構成 —』校倉書房 pp. 165～176 に採録)
- 岸俊男「古代刀剣銘と稲荷山鉄剣銘」『橿原考古学研究所論集』第六 吉川弘文館 pp. 1～33 (1988『日本古代文物の研究』塙書房 pp. 9～42に採録)
- 東潮「蛇行状鉄器考」『橿原考古学研究所論集』第七 pp. 33～59 (1993「馬の文化叢書」1 古代 — 埋もれた馬文化財団法人馬事文化財団 pp. 246～269 に再録)
- 加藤晃「日本の姓氏」『東アジア世界における日本古代史講座』10 学生社 pp. 86～129

<1985(昭和60)年>

- 『季刊考古学』10
 - ・石野博信「古墳編年の展望」pp. 14～15 (1990『古墳時代史』雄山閣考古学選書31 pp. 3～6 に採録)
 - ・中村浩「須恵器による編年」pp. 30～33
 - ・横川好富「武蔵」pp. 70～71
 - ・菅谷文則「古墳の実年代」pp. 87～90
- 古田武彦「関東の大王」『古代は輝いていたⅡ 日本列島の大王たち』朝日新聞社 pp. 289～340
- 原島礼二「地方豪族の争乱と大和王権」『歴史読本』2月号 pp. 86～94
- 西山克己「関東地方における須恵器出現期の様相」『駿台史学』駿台史学会 pp. 59～94
- 小久保徹・杉崎茂樹『史跡埼玉古墳群保存修理事業報告書 稲荷山古墳』埼玉県教育委員会
- 杉崎茂樹他『埼玉古墳群発掘調査報告書 第2集 鉄砲山古墳』埼玉県教育委員会
- 杉崎茂樹他『埼玉古墳群発掘調査報告書 第3集 愛宕山古墳』
- 篠川賢「国造制の成立」『国造制の成立と展開』吉川弘文館 pp. 1～90
- 古田武彦「稲荷山古墳をめぐる」『古代は輝いていた』Ⅱ 日本列島の大王たち 朝日新聞社 pp. 290～322
- 平野邦雄「『稲荷山古墳鉄剣銘』の解釈」『大化前代政治過程の研究』吉川弘文館 pp. 98～122
- 西郷信綱「アズマとは何か」『古代の声 うた・踊り・市・ことば・神話』朝日新聞社 pp. 37～74
- 泉森皎「刀剣の出土状態の検討 — 刀剣の呪術的性格の理解のために」『永末先生米壽記念献呈論文集』乾 pp. 393～3～435
- 松本清張「稲荷山・船山両鉄刀の製作地」『図書』431 pp. 46～51
- 矢部良明「古墳時代後期の器皿にみる中国六朝時代器皿の影響」『MUSEUM』412 pp. 4～15
- 白石太一郎『古墳の知識』1 墳丘と内部構造 東京美術 p. 34, p. 86
- 増田逸朗「埼玉古墳群と円筒埴輪」『三県シンポジウム 埴輪の変遷 — 普遍性と地域性 —』pp. 95～100
- 石野博信「古墳時代史 11. 反乱伝承と古墳(2)」『季刊考古学』12 pp. 87～92 (1990『古墳時代史』pp. 123～133 に採録)
- 前澤輝政「埼玉古墳群」『東国の古墳 古代史の宝庫』そして pp. 37～40
- 市毛勲「稲荷山古墳出土の人物埴輪について」『研究紀要』19 早稲田実業学校
- 江上波夫「日本における騎馬民族征服王朝説の展開」『学問の探究』俊成出版社 (1992「騎馬民族征服王朝説」の展開) に改題し『江上波夫の日本古代史 騎馬民族説四十五年』大巧社 pp. 3～39に加筆採録)
- 白石太一郎「年代決定論(二) — 弥生時代以降の年代決定 —」『日本考古学』1 研究の方法 岩波書店 pp. 217～242
- 鈴木靖民「倭の五王の外交と内政 — 府官制の秩序の形成 —」『日本古代の政治と制度』続群書類完成会 pp. 5～41
- 義江明子「古代の氏と共同体および家族」『歴史評論』pp. 21～39
- 岸俊男「古代学序説 — 稲荷山鉄剣をめぐる」『古代学への招待』Ⅰ朝日カルチャーブックス53 大阪書籍 pp. 1～36
- 上田正昭「四・五世紀の日朝関係 — 七支刀と好太王碑をめぐる」『シンポジウム好太王碑』四・五世紀の東アジアと日本 東方書店 pp. 141～153

<1986 (昭和61)年>

- 直木孝次郎『記・紀』批判と津田史学『季刊明日香風』17 飛鳥保存財団 pp.57~81 (1990『日本神話と古代国家』講談社学術文庫 pp.257~272 に採録)
- 山中敏史「律令国家の成立」『日本考古学』6 岩波書店 pp.227~294
- 笹川進二郎「部民制についての覚書」『北山茂夫追悼日本史学論集』歴史における政治と民衆 日本史論叢会 pp.431~454
- 白崎昭一郎「稲荷山刀銘の再検討」『東アジアの古代文化』46 p.p.162~176
- 『資料館報』No16
- ・「將軍山古墳及び二子山古墳周堀範囲確認調査及び整理概要報告」pp.9~19
 - ・「行田市埼玉出土の人物埴輪」pp.32~34
- 白石太一郎「ヤマト王権と東国豪族」『図説発掘が語る日本史』2 pp.168~173
- 『大古墳が語る王権の争奪』日本古代史4 集英社
- ・直木孝次郎「古代王権の争奪」pp.5~18、「永遠の謎か、邪馬台国と女王卑弥呼—女王国の地は畿内か九州か」pp.19~56
 - ・金井塚良一「東国の覇者『毛野国』と大王—辛亥銘鉄剣が語る畿内と地方との関係」pp.197~230
- 井上秀雄「稲荷山鉄剣は大和朝廷の支配を立証しない」『歴史読本』臨時増刊号 pp.278~285
- 徳光久也「五・六世紀の大刀銘と鏡銘—「わが国最古の文章」問題—」『文学』54 pp.13~23
- 義江明子『日本古代の氏の構造』吉川弘文館
- ・「日本の氏と「家」」pp.1~26
 - ・「出自と系譜」pp.317~351
 - ・「氏族系譜の形成—高群逸枝『母系制の研究』批判—」pp.352~374
 - ・「系譜形式と同族関係—文章系譜~堅系図~横系図—」pp.375~406
- 飯塚卓二「埼玉古墳群の出現と毛野地域政権」『研究紀要』3 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 pp.1~20
- 『埼玉古墳群 国宝・金錯銘鉄剣と古代埼玉』埼玉新聞社
- ・原島礼二「古代東国史への誘い」pp.6~8
 - ・塩野博「稲荷山古墳と金錯銘鉄剣」pp.10~29
 - ・金井塚良一「將軍山古墳の築造時期」pp.32~34
 - ・長谷川宏「丸墓山古墳と忍城水攻」pp.36~39
 - ・小久保徹「さきたま古墳群の概況」pp.40~44
 - ・増田逸朗「周辺古墳群の概況」pp.46~56
 - ・大村進「防人歌と東国」pp.58~61
- 杉崎茂樹他『埼玉古墳群発掘調査報告書 第4集 瓦塚古墳』
- 『展示ガイド さきたま古墳群と北武蔵の農具』埼玉県立さきたま資料館 pp.1~36
- 小川良祐「鉄剣に浮かび出た古墳時代の日本—埼玉県稲荷山古墳の鉄剣と島根県岡田山古墳の鉄刀—」『歴史手帖』14-4 pp.78~84
- 『邪馬台国と倭の五王』海外視点・日本の歴史2 きょうせい
- ・笠井倭人「倭王武の上表文」pp.128~139
 - ・黛弘道「漢字の伝来 渡来人の役割と活躍」pp.164~175
- 河内祥輔「六世紀型の皇統形成原理」『古代政治史における天皇制の論理』吉川弘文館 pp.29~66
- 大塚初重「関東地方に展開する古墳の実態的研究」『東アジアの古代文化』47 pp.62~72
- 森田悌「北武蔵と仏教」『日本古代の耕地と農民』第一書房 pp.259~278
- 新納泉「ジャーナリズムと考古学」『日本考古学』7 pp.209~232
- 荒井秀規「銘文大刀の歴史」『歴史手帖』14-6 pp.52~58
- 東野治之「文字のはじまり—稲荷山鉄剣銘から仮名の発明まで」『日本古代史』2 縄文との対話 集英社 pp.51~184 (1994『書の古代史』岩波書店 pp.187~215 に「古代の文字世界」に改題し加筆採録)
- 『資料館報』No17
- ・小久保徹「史跡埼玉古墳群保存修理事業—丸墓山古墳の保存修理—」pp.3~7
 - ・若松良一「丸墓山古墳周堀範囲確認調査及び整理概要報告」pp.8~13
- 義江明子「古墳時代の社会構造—家族・親族と氏」『季刊考古学』16 pp.75~78
- 黒岩重吾「対談」大和岩雄 古代王権についての新視点—阿倍氏をめぐるのアプローチ—『古代史の謎を探る』大和書房 pp.65~95
- 森浩一「天皇陵考察の基礎」『前方後円墳の世紀』日本の古代5 中央公論社 pp.189~224 (1994『考古学と古代日本』中央公論社 pp.439~474 に採録)
- 熊谷公男「古代国家と氏族」『古代史研究の最前線』1 政治・経済編〔上〕雄山閣 pp.125~140
- 『季刊明日香風』20
- ・原島礼二「辛亥銘鉄剣以後の北武蔵」pp.12~19
 - ・大塚初重「関東の後期古墳」pp.20~25
- 原島礼二「毛野氏の変容と稲荷山古墳」『歴史読本』10月号 pp.86~91
- 永岡治「稲荷山鉄剣の語るもの」『古代東国物語』角川選書170 pp.114~122
- 『王権をめぐる戦い』中央公論社
- ・岸俊男「古代の画期雄略朝からの展望」pp.9~40
 - ・鎌田元一「大王による国土お統一」pp.41~142
- 『日本古代文化研究』3
- ・関義則「古墳時代後期鉄鍬の分類と編年」pp.5~20
 - ・白杵勲「古墳土鉄刀の多変量解析」pp.21~32
 - ・斎藤弘「古墳時代の壺鏡の分類と編年」pp.47~53
 - ・岡安光彦「週末期の前方後円墳と馬具」pp.67~72
- 前之園亮一『古代王朝交替説批判』吉川弘文館 pp.27~33

□井上光貞(発言部分)『シンポジウム高句麗と日本文化』講談社 pp.101~102

<1987(昭和62)年>

- 石上英一「古代東アジア地域と日本」『日本の社会史』1 列島内外の交通と国家 岩波書店 pp.55~96
- 柳田敏司『杖刀人のふる里に生まれて — 埼玉の歴史と文化財 —』
- ・「鉄剣銘文から思うこと」pp.113~117(1979.9.18『埼玉新聞』を採録)
 - ・「辛亥銘鉄剣から」pp.117~119(1984.4.16『埼玉新聞』を採録)
- 森浩一・森博達「漢字—倭人も使いこなしていた漢字」『森浩一対談集 古代技術の復権 — 技術から見た古代人の生活と知恵』pp.72~91(1984.6.25『産経新聞』(大阪版)『対談シリーズ古代は語る』を増補加筆採録)
- 『柳田敏司先生還暦記念論文集 埼玉の考古学』新人物往来社
- ・金井塚良一「埼玉將軍山古墳の性格をめぐって」pp.381~400
 - ・増田逸朗「埼玉政権と埴輪」pp.401~421
 - ・市毛勲「古代埼玉における顔面赤彩色 — 人物埴輪顔面の赤彩色について V —」pp.423~443
- 塚口義信「初期大和政権とオホビコの伝承 — 稲荷山古墳出土鉄剣銘の「意富比埴」私見 —」『日本書紀研究』14 塙書房 pp.163~190
- 杉崎茂樹他『埼玉古墳群発掘調査報告書 第5集 二子山古墳』埼玉県教育委員会
- 『新編埼玉県史』通史編1 原始・古代 埼玉県
- ・小久保徹「埼玉古墳群と金錯銘鉄剣」pp.305~317
 - ・原島礼二「大和王権と武蔵国造」『大化改新と東国』pp.404~444(1993『古代東国の風景』pp.75~106に採録)
- 利根川章彦『『やねや塚』と『新ヶ谷戸』 — 7世紀の北武蔵における村落首長層に関する考古学的検討 —』
- 『埼玉県立博物館研究紀要』13 pp.3~32
- 原島礼二「東国の神がみ」『毎日グラフ別冊 古代史を歩く』5 東国 pp.44~49(1993『古代東国の風景』 pp.178~188に採録)
- 西嶋定生・平野邦雄・白石太一郎・山尾幸久・甘粕健・田辺昭三・門脇禎二『空白の四世紀とヤマト王権 — 邪馬台国以後 —』角川選書179
- 鳥養直樹「古代地域国家についての覚書 — 相武国造論を中心に —」『まげい』7 グループまげい pp.11~17
- 『季刊考古学』20
- ・伊藤純「古墳時代の黥面」pp.38~42
 - ・橋本博文「関東地方の埴輪」pp.72~77
- 「瓦塚古墳南東部周堀範囲確認調査及び整理概要報告」『資料館報』No18 pp.8~12
- 『日本の古代』11 ウジとイエ 中央公論社
- ・前之園亮一「ウジとカバネ」 pp.211~258
 - ・八木充・原島礼二「東と西の豪族」pp.349~428(原島氏執筆部分 1993「東国の豪族と文化」『古代東国の風景』pp.109~143に採録)
- 金井塚良一・梅沢重昭・増田逸朗・石塚久則・若松良一・熊倉浩靖『討論 群馬・埼玉の埴輪』あさを社
- 金井塚良一「北武蔵の埴輪の時代」『埴輪の時代』上毛新聞社 pp.100~121
- 坂本和俊「東国における古式須恵器研究の課題」『第8回 三県シンポジウム 東国における古式須恵器をめぐる諸問題』第I分冊 — 基調報告編 — pp.459~472
- 川島達人・金井塚良一「対談・人物埴輪を語る」『埴輪の微笑』新人物往来社 pp.23~146
- 河名勉「歴史教育のなかの日本古代史 — 大和政権を中心に —」『千葉史学』11 千葉歴史学会 pp.79~99
- 田中広明「終末期古墳の地域性 — 関東地方の加工石材使用石室の系譜 —」『土曜考古』12 pp.53~101

<1988(昭和63)年>

- 和田萃「ワカタケルとその時代」『大系日本の歴史』2 古墳の時代 小学館 pp.138~170(1992復刊 pp.170~212)
- 鄭早苗「朝鮮三国と古代日本の文字」『古代史論集』上 塙書房 pp.45~66
- 直木孝次郎「日本古代統一国家の形成 — 「建国記念日」問題を考えるために —」『歴史地理教育』423 pp.10~19(1990『日本神話と古代国家』pp.219~237に採録)
- 佐伯有清編『古代を考える 雄略天皇とその時代』吉川弘文館
- ・篠川賢「鉄刀銘の世界」pp.80~114
 - ・前川明久「氏姓制への道」pp.172~197
- 高橋一夫「古代の河川交通」『草加市史研究』5 pp.5~26
- 杉崎茂樹他『埼玉古墳群発掘調査報告書 第6集 丸墓山古墳・埼玉1~7号墳・將軍山古墳』
- 『調査研究報告』1 埼玉県立さきたま資料館
 - ・杉崎茂樹「県指定「農夫埴輪」について」pp.23~27
 - ・田中正夫「將軍山古墳出土遺物の資料調査報告(1) — 鉄鏃 —」pp.28~32
- 『日本の古代』14 ことばと文字
- ・和田萃「新発見の文字資料」pp.9~34
 - ・森博達「日本語と中国語の交流」pp.111~174
 - ・藤本幸夫「古代朝鮮の言語と文字文化」pp.175~240
 - ・岡崎晋明「文字と記号」pp.373~422
- 『図説検証 原像日本』3 地方と中央 古代を彩る地方文化 旺文社
- ・田辺昭三「列島の東と西」pp.25~44
 - ・原島礼二「毛野からみた大和」pp.141~156
- 関義則・宮代栄一「県内出土の古墳時代の馬具」『埼玉県立博物館研究紀要』14 pp.3~55
- 塚田良道・中島洋一『瓦塚古墳・下埼玉通遺跡』行田市文化財調査報告書第19集 行田市教育委員会
- 金井塚良一・古田武彦対談「謎の五世紀は見えてきたか」『歴史読本』4月号 pp.301~316
- 石部正志「河内王統と大古墳」『古代天皇のすべて』新人物往来社 pp.59~80
- 『古代統一政権の成立』エコール・ド・ロイヤル古代日本を考える11

- ・和田萃「ワカタケル大王とその時代」 pp. 55～95
- ・直木孝次郎「継体・欽明朝の変革」 pp. 96～136
- 『いま、なぜ鉄剣か』記念講演会要旨 埼玉県教育委員会
- 森田悌『古代の武蔵 稲荷山古墳の時代とその後』吉川弘文館 pp. 14～23
- 『日本の社会史』6 社会的諸集団 岩波書店
 - ・鎌田元一「日本古代の『クニ』」 pp. 17～35
 - ・吉田孝「古代社会における『ウジ』」 pp. 38～72
- 黒岩重吾「古代統一国家はいかにして形成されたか？」『歴史街道』7月号 P H P 研究所 pp. 90～99 (1993『古代日本への探検』 pp. 9～40に採録)
- 『東アジアの古代文化』56
 - ・岩崎卓也「古墳の変革 — 東国の場合 —」 pp. 90～99
 - ・金井塚良一・原島礼二「『王賜』鉄剣銘文と古代東国」 pp. 104～137 (1989『金井塚良一对談集 古代東国の原像』 pp. 269～299に採録)
- 中村浩「須恵器の編年」『季刊考古学』24 pp. 35～40
- 水野祐「日本古代の東国における帰化人とその文化」『古代の日本と韓国』2 古代日本と渡来文化 pp. 47～95 学生社 (1994『歴史読本臨時増刊』渡来人は何をもたらしたか 新人物往来社 pp. 244～266に採録)
- 鶴岡静夫「大和王権と地方王権・在地首長層」『古代王権と氏族』古代史論集2 名著出版 pp. 1～63
- 義江明子「古系譜の「兄」(子)をめぐる」『日本歴史』484 吉川弘文館 pp. 1～20
- 平川南「銘文の解説と意義」『王賜』銘鉄剣概報 千葉県市原市稲荷台1号墳出土』吉川弘文館 pp. 18～26
- 千賀久「日本出土初期馬具の系譜」『橿原考古学研究所論集』第九 pp. 17～67 (1993「馬の文化史」1 pp. 108～149に採録)
- 編集部「金石文再検討について」『市民の古代』10 特集金石文を問う 新泉社 pp. 74～79
- 川西宏幸『古墳時代政治史序説』塙書房
 - ・「後期畿内政権論」 pp. 163～224 (1986『考古学雑誌』71-2を改筆採録)
 - ・「円筒埴輪総論」 pp. 225～360 (1978・1979『考古学雑誌』64-2・3を改筆採録)
- 寺西貞弘『大化前代の皇位継承について — 雄略天皇の即位をめぐる —』創元社 pp. 60～82
- 小澤一雅『前方後円墳の数理』考古学選書29 雄山閣 pp. 10～14
- 水野正好「古代刀剣にみる天皇家と道教世界」『臨時増刊歴史読本』特集古代天皇家と宗教の謎 pp. 196～203 (1993『別冊歴史読本特別増刊』古代天皇家の謎 pp. 342～351に彩録)
- 古田武彦「P・G型古墳の史料批判 — 主従型の場合」『昭和薬科大学紀要』22 (1991『九州王朝の歴史学 多元的世界への出発』髪々堂 pp. 167～214に採録)
- 岡安光彦「心葉形鏡板付轡・杏葉の編年」『考古学研究』139 pp. 53～68

＜1989(平成元)年＞

- 『観音塚古墳の時代 — 6世紀後半の東国古墳文化 —』高崎市教育委員会
- 福本正夫『稲荷山古墳鉄刀銘文115文字をめぐる諸問題』(自費出版、1978～1985『五條古代文化』13～30号掲載を採録)
- 菅谷文則「古墳の被葬者論争」『論争・学説 日本の考古学』別巻 雄山閣 pp. 106～125
- 関義則「〈資料紹介〉埼玉將軍山古墳出土の蛇行状鉄器」『埼玉県立博物館紀要』16 pp. 32～41
- 「史跡埼玉古墳群保存修理事業 — 丸墓山古墳の保存修理 —」『資料館報』No19 pp. 15～18
- 若松良一他『埼玉古墳群発掘調査報告書 第7集 奥の山古墳・瓦塚古墳・中の山古墳』
- 『調査研究報告』2
 - ・田中正夫「史跡埼玉古墳群保存修理報告 — 丸墓山古墳保存修理事業の報告 —」 pp. 1～40
 - ・駒宮史朗「県内主要古墳の調査(Ⅱ) — 戸場口山古墳範囲確調査 —」 pp. 41～64
- 早川万年「東国古代史に関する二、三の覚書 — 三郷の古代を考えるために —」『葦のみち』創刊号 三郷市史研究 pp. 33～43
- 田中広明「終末期古墳出現への動態Ⅰ — 変容する在地首長層と造墓の展開 —」『研究紀要』5 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 pp. 139～178
- 井上秀雄「稲荷山鉄剣銘考 — 通説への疑問 —」『書道研究』4月号 美術新聞社 pp. 20～41
- 田中広明「緑泥片岩を運んだ道 — 変容する在地首長層と労働差発権 —」『土曜考古』14 pp. 83～112
- 角林文雄『『帝紀』の成立と性格』『日本古代の政治と経済』 pp. 279～289
- 新内泉「王と王の交渉」『古代史復元』6 古墳時代の王と民衆 講談社 pp. 145～161
- 遠藤元男編『関東の古代社会』古代史論集1 名著出版
 - ・水野祐「稲荷山古墳出土鉄剣の文化史的意義と、古代東国史への一考察」 pp. 27～52
 - ・金井塚良一「北武蔵の前方後円墳消滅期の問題 — 小見真観寺古墳の出現をめぐる —」 pp. 53～94
- 福宿南嶋「江田船山・稲荷山古墳出土両刀剣銘の同時性」『書道研究』7月号 pp. 107～126
- 金井塚良一「埼玉將軍山古墳の馬冑」『歴史手帖』17-9 pp. 4～9
- 『千葉史学』15
 - ・伊藤循「『王賜』銘鉄剣をめぐる基礎的考察」 pp. 15～31
 - ・吉村武彦「大和王権と古代東国」 pp. 44～66
- 岩崎卓也「古墳追求への一視角」『前方後円墳の時代 — しもつけにおけるその出現と展開』栃木県教育委員会 pp. 56～61
- 甘粕健「地域性の展開と政治過程 — 古墳時代の毛野と武蔵を中心として・討議」『考古学研究』36-2 pp. 52～70
- 井上辰雄「古代王権と豪族 — 一部民制を介してのスケッチ」『古代史研究の課題と方法』国書刊行会 pp. 3～23
- 『埼玉古墳群とその時代 — 古代東国の武人たち —』埼玉県立さきたま資料館
- 吉田晶「吉備の「国」」『岡山の自然と文化』8 岡山県郷土文化財団 pp. 2～40 (1995『吉備古代史の展開』塙書房 pp. 297～334に採録)

<1990 (平成2) 年>

- 明石一紀「ウジの基本的性格 — 古代における父系出自 —」『日本古代の親族構造』吉川弘文館 pp.218~269
- 『古代史復元』7 古墳時代の工芸
- ・杉山善作「人物埴輪の背景」pp.41~56
 - ・西山要一「稲荷山古墳鉄剣象嵌銘の発見」pp.105~107
 - ・橋本博文「百練の利刀を賜う」pp.108~120
 - ・早乙女雅博「政治的な装身具」pp.129~140
 - ・東潮「六世紀前半の国際交流」pp.183~184
- 沈仁安「倭国の政治・経済・文化」『倭国と東アジア』東アジアのなかの日本歴史1 六興出版 pp.248~272
- 辰己和弘「居館の経営像」「人物埴輪と王権祭儀」『高殿の古代学—豪族の居館と王権祭儀』白水社 pp.33~51、pp.126~146
- 石渡信一郎『応神陵の被葬者はだれか』三一書房 pp.92~103
- 黒田達也「オシサカノオホナカツヒメと雄略天皇についての系譜的考察」『日本書紀研究』17 塙書房 pp.183~211
- 前田晴人「上宮王家を護る食饌氏族—膳臣」『臨時増刊歴史読本』古代豪族総覧 pp.94~97
- 若松良一「—瓦塚古墳の調査から—造り出し出土の供献土器について」『調査研究報告』3 pp.1~24
- 中村浩「稲荷山古墳出土須恵器」『研究入門 須恵器』柏書房 pp.85~87
- 水野正好「倭の五王と対外交流」『日本文明史』2 角川書店 pp.218~248
- 森浩一『図説日本の古代』5 古墳から伽藍へ 中央公論社
- 山崎武「東日本最大の埴輪生産跡 — 鴻巣市生出塚埴輪窯跡群 —」『埼玉自治』480 pp.58~61
- 塚田良道・太田博之「埼玉県の円墳」『古代学研究』123 古代学研究会 pp.122~125
- 坂本和俊「関東」『古墳時代の研究』11 地域の古墳Ⅱ 東日本 雄山閣 pp.79~98
- 「史跡埼玉古墳群保存修理事業—瓦塚古墳—」『資料館報』No20・21 pp.19~22
- 黒田達也『古代の天皇と系譜』校倉書房 pp.132~135
- 『古墳の年代をはかる』(展示解説)埼玉県立さきたま資料館
- 岩崎卓也『古墳の時代』教育社歴史新書<日本史>46
- 『季刊考古学』33
- ・若松良一「埼玉県將軍山古墳の馬冑」pp.60~61
 - ・時雨彰「画文帯神獸鏡の系譜」pp.66~67
 - ・中村潤子「日本と朝鮮半島の金工品」pp.76~80
- 鎌田元一「天皇号・国号の成立」『別冊文藝・天皇制 歴史・王権・大嘗祭』河出書房新社 pp.50~55
- 杉崎茂樹「北武蔵域における前方後円墳の消滅について」『前方後円墳の消滅 畿内政権の東国支配を探る』 新人物往来社 pp.23~54
- 篠川賢「部民制とは何か」『争点日本の歴史』2 古代編Ⅰ 新人物往来社 pp.168~183
- 小野山節「古墳時代の馬具」『日本馬具大鑑』1 古代上 日本中央競馬会 pp.1~32

<1991 (平成3) 年>

- 駒宮史朗「埼玉古墳群の終焉はいつか」『埼玉自治』487 埼玉県自治研究会 pp.56~59
- 鬼頭清明「ヤマト王権と伽耶諸国」『伽耶はなぜほろんだか〜 日本古代国家形成史の再検討』大和書房 pp.56~59
- 松中由美子・清水眞一・菅谷文則「<シンポジウム 円墳>の報告」『古代学研究』124 pp.44~47
- <資料紹介>若松良一「埼玉將軍山古墳出土の馬冑」『調査研究報告』4 pp.1~12
- 上田正昭「倭の五王とその時代」『謎の五世紀』学生社 pp.45~76
- 船山政志・塚田良道「小針鎧塚古墳の桂甲」『行田市郷土資料館研究報告』2 pp.1~30
- 『関東の考古学』学生社
- ・若松良一「古墳文化と埴輪」pp.151~205
 - ・村井崑雄「古墳時代の武具と馬具」pp.206~243
- 大平聡「古代の『皇位継承』」『歴史評論』493 pp.16~22
- 大塚初重「稲荷山鉄剣銘文から何が読みとれるか?」『驚異への旅 古代日本七つの謎』文藝春秋 pp.106~113
- 『古代探叢』Ⅲ 早稲田大学考古学会創立30周年記念考古学論集 早稲田大学出版部
- ・杉崎茂樹「古墳時代の北武蔵域における有力首長層の動態」pp.379~405
 - ・吉川国男「中原高句麗碑と辛亥銘鉄剣」pp.407~424
 - ・大久保奈奈「金銀装の轡」pp.425~447
- 『古代の日本と東アジア』小学館
- ・上田正昭「古代史と辛亥銘鉄剣」『古代の日本と東アジア』小学館 pp.11~24 (1988 日本考古学協会研究大会 記念講演「辛亥銘鉄剣と古代史」の要旨を補完)
- 石渡信一郎『蘇我馬子は天皇だった』三一書房 pp.83~95
- 岸俊男「問題がひそむ『万葉集』の用事法」『古代史からみた万葉集』学生社 pp.200~236
- 武光誠『日本誕生』古代国家「大和」とまつろわぬ者たちの物語 文藝春秋 p.173
- 『埼玉考古学論集—設立10周年記念論文集—』財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- ・関義則「逆刺独立三角・柳葉形鉄鏃の象徴とその意義」pp.683~709
 - ・大谷徹「北武蔵出土の銅鏡」pp.779~800
 - ・増田逸朗「埼玉政権の法量的分析」pp.821~843
 - ・山本禎「埼玉県における後期古墳の様相」pp.845~860
- 上田正昭『日本の神話を考える』小学館 pp.28~31
- 黒岩重吾「畿内王権と倭の五王」『古代浪漫紀行 邪馬台国から大和王権への道』勁文社 pp.153~192
- 吉村武彦『古代王権の展開』日本の歴史3 集英社 pp.43~48
- 『資料館報』No22
- ・「埼玉古墳群に関連する調査」p.9
 - ・「史跡埼玉古墳群保存修理事業—瓦塚古墳—」pp.14~16

- ・「二子山古墳の整備に伴う確認調査事業」 pp. 17～18
- 金井塚良一『人物埴輪を語る』さきたま出版会
- 塚田良道「海をわたってきた文化・解説」『朝鮮半島から武蔵へ海をわたってきた文化』行田市郷土資料館 pp. 45～61
- 福宿孝夫「稲荷山古墳鉄剣銘と江田船山大刀銘」『日本古器銘と好太王碑文』中国書店 pp. 154～184
- 塚口義信「“原帝紀”成立の思想的背景——“帝紀”「旧辞」論序説——」『ヒストリア』133 大阪歴史学会 pp. 105～128

〈1992（平成4）年〉

- 若松良一「埴輪の種類と編年——人物・動物埴輪」『古墳時代の研究』9 雄山閣 pp. 108～150
- 田中広明「武蔵地域の鬼高式土器——古墳出土の食膳具の示す地域圏——」『月刊考古学ジャーナル』342 pp. 2～6
- 『さきたまの古墳 埼玉県立さきたま資料館展示ガイド』埼玉県立さきたま資料館
- 『調査研究報告』5
 - ・若松良一「〈資料紹介〉 埼玉稲荷山古墳中堤発見の朝顔形円筒埴輪」 pp. 1～2
 - ・若松良一・日高慎「形象埴輪の配置と復原される葬送儀礼（上）—— 埼玉瓦塚古墳の場合を中心に——」 pp. 3～20
- 鬼頭清明「ワカタケル大王の斯鬼宮——宮の説話と金石文」『新版古代の日本』5 近畿 I pp. 295～296
- 市毛勲「人物埴輪顔面のヘラガキについて」『考古学雑誌』77-4 pp. 1～16
- 若松良一他『埼玉古墳群発掘調査報告書 第8集 二子山古墳・瓦塚古墳』
- 『国立立歴史民俗資料館研究報告』44 東国における古墳の終末
 - ・白石太郎「関東の後期大型前方後円墳」 pp. 21～51
 - ・杉崎茂樹「北武蔵における古墳時代後・終末期の諸様相」 pp. 285～327
- 『シンポジウム・東アジアの再発見 謎の五世紀を探る』読売新聞社
 - ・江上波夫「日本古代の騎馬民族国家」 pp. 9～47（1992『江上波夫の日本古代史』 pp. 275～300に加筆採録）
 - ・王仲殊「倭の五王をめぐる」 pp. 145～157
- 江上波夫・森浩一「特別対談「舟に乗った騎馬民族」が見えてきた」『月刊Asahi』4-3 pp. 128～135（1992『江上波夫の日本古代史』に加筆採録）
- 森浩一・網野善彦『馬・船・常民 東西交流の日本列島史』河合出版 pp. 244～245
- 直木孝次郎・足利健亮・都出比呂志・中尾芳治・和田萃「河内政権論をめぐる」『大阪の歴史』大阪市史編纂所 pp. 1～59
- 水野祐監修「ワカタケルではない！稲荷山鉄剣の贈与人」『逆説の日本古代史』KKベストセラーズ pp. 148～149
- 辰己和弘「日本古代の顔面装飾とその系譜」「冥界への旅——「人物の窟」壁画にみる古代精神」『埴輪と絵画の古代学』白水社 pp. 81～124、 pp. 161～216
- 「史跡埼玉古墳群保存修理事業—— 將軍山古墳——」『資料館報』No23 pp. 14～18
- 『図説埼玉県の歴史』河出書房新社
 - ・塩野博「北武蔵の古墳」 pp. 63～76
 - ・柳田敏司「辛亥銘鉄剣が語るもの」 pp. 77～81
 - ・原島礼二「伝承のなかの古代東国」 pp. 83～87
- 本位田菊士「天皇号の成立とアジア」『アジアの中の日本史』II 外交と戦争 東京大学出版会 pp. 63～91
- 金元龍・李基白・韓炳三・大塚初重・井上秀雄・上田正昭・西谷正『シンポジウム 日韓古代史の謎』朝日新聞社 pp. 132～141
- 『月刊考古学ジャーナル』349
 - ・金井塚良一「東国と渡来文化」 pp. 2～3
 - ・塚田良道・新井端「人物埴輪と大陸文化」 pp. 15～19
 - ・若松良一「埼玉將軍山古墳と渡航文化 馬冑・蛇行状鉄器・銅鏡・横穴式石室をめぐる——」 pp. 20～28
 - ・吉川國男「埼玉稲荷山古墳鉄剣銘と中原高句麗碑」 pp. 29～31
- 若松良一「再生の祀りと人物埴輪——埴輪群像は殯を再現している——」『東アジアの古代文化』72 pp. 139～15
- 塚田良道「東国の伽耶文化」『月刊考古学ジャーナル』350 pp. 15～18
- 『月刊しにか』特集 漢字が入ってきたころ 大修館書店
 - ・和田萃・森博達・木田章義「鼎談『漢字が入ってきたころ』」 pp. 8～16
 - ・犬飼隆「漢字が入ってきたころの日本語と漢字の受容」 pp. 31～36
 - ・毛利正守「漢字受容期の資料をめぐる」 pp. 44～54
- 『新版古代の日本』8 関東 角川書店
 - ・小林三郎「関東の古墳と地域首長の成立」 pp. 117～148
 - ・杉山善作「有銘鉄剣にみる東国豪族とヤマト王権」 pp. 149～179
- 『さきたま將軍山古墳と銅鏡』（展示解説）埼玉県立さきたま資料館
- 森田悌「稲荷山鉄剣の世界」『古代東国と大和政権』新人物往来社 pp. 15～49
- 橋本博文「相武の古墳」『季刊考古学』別冊3 東国の古墳 pp. 68～80
- 東野治之「銘文から何がわかるか——稲荷山鉄剣を例に」『見る・読む・わかる 日本の歴史』1 原始・古代朝日新聞社 pp. 50～51
- 『古墳と地方王権』新人物往来社
 - ・小林三郎「古墳、その時代と文化」 pp. 9～46
 - ・梅沢重昭「毛野国の形成と前方後方墳」 pp. 85～126
- 大塚初重「古墳文化と渡来人の役割」『巨大古墳と伽耶文化——“空白”の四世紀・五世紀を探る——』角川選書 235 pp. 50～68

※ 文献は可能な限り網羅したが、脱稿が少なからずあると思われる。IIにおいて今回除いた新聞・週刊誌・古文書・古記録等と併せて補完する予定である。目録作成にあたっては多くの方に御協力を賜った。特に利根川章彦氏には多数の文献を紹介していただいた。末筆ながら感謝いたします。